

会 告

第 91 回講演大会講演募集案内

申込（原稿同時提出）締切り 昭和51年1月16日（金）

本会は第91回講演大会を昭和51年4月4日（日）、5日（月）、6日（火）の3日間東京大学（東京都文京区本郷 7-3-1）において開催することになりました。下記要領により講演募集をいたしますので、奮ってご応募下さるようご案内いたします。

講演希望者は昭和51年1月16日（金）までに申込用紙と講演概要原稿を提出して下さい。

講演ならびに申込要領

1. 講演内容 鉄鋼の学術、技術に直接関連あるオリジナルな発表。
2. 講演時間 1 講演につき講演15分
3. 講演前刷原稿
 - 1) 原稿は目的、成果、結論が理解しやすいよう簡潔にお書き下さい。
 - 2) 設備技術に関する原稿には計画にあつての基本方針、特色、成果等が必ず盛り込まれているものとする。
 - 3) 商品名等は原則としてご遠慮願います。
 - 4) 謝辞は省略して下さい。
 - 5) 原稿枚数は原則として所定のオフセット用原稿用紙（1600字詰）1枚とします。しかし内容的に止むを得ない場合は2枚までを認めます。（いずれも表、図、写真を含む）原稿が2枚にわたり執筆された場合には編集委員会で査読のうえ1枚にまとめなおし願うことがありますのであらかじめご了承下さい。
 - 6) 原稿は所定の用紙にタイプ印書あるいは黒インキまたは墨を用い手書きとして下さい。
 - 7) 原稿用紙は（会告N186 ページ）のように有償頒布いたしております。
4. 講演申込資格 講演者は本会会員に限ります。非会員の方で講演を希望される方は、所定の入会手続きを済ませたうえ、講演申込みをして下さい。また共同研究者で非会員の方も入会手続きをされるよう希望いたします。
5. 講演申込制限 講演申込みは1人3件以内といたします。
6. 申込方法 本誌クリーム頁末添付の講演申込用紙に必要事項を記入の上、講演前刷原稿とともにお申し込み下さい。
7. 申込用紙の記載について
 - 1) 申込用紙は(A)、(B)とも太字欄をのぞき楷書でご記入下さい。（申込用紙は、クリーム頁末添付）
 - 2) プログラム編成上の参考といたしますので、「講演分類欄」に講演内容が、下記講演分類のいずれに該当するか、番号でご記入下さい。
 - 3) 講演者には氏名の前に○印を、また研究者氏名にはローマ字読みを付して下さい。
 - 4) 講演要旨は、情報管理のための文献検索カードに利用いたしますので講演内容が明確に把握できるようおまとめ下さい。
8. 申込みの受理 下記の申し込みは理由のいかんにかかわらず、受付はいたしませんので十分ご注意下さい。
 - 1) 所定の用紙以外の用紙を用いた申込
 - 2) 必要事項が記入されていない申込
 - 3) 単なる書簡または葉書による申込ならびに電報、電話による申込
 - 4) 文字が読みづらいもの、印刷効果上不適当なものと認められるもの
9. 申込締切日 昭和51年1月16日（金）17時着信まで
申込用紙、講演前刷原稿を同時提出のこと。
10. 申込先 100 東京都千代田区大手町 1-9-4 経団連会館 3階
（社）日本鉄鋼協会 編集課

講演分類

製 鉄						製 鋼				加 工		
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13
製鉄基礎	原料・燃料	高炉製鉄	特殊製鉄	フェロアロイ	製鉄耐火物	製鋼基礎	溶解・精錬	造塊	製鋼耐火物	塑性加工	熱処理	表面処理・防食
加 工			性 質									
14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26
鑄造	粉末冶金	溶接	金属物理解	金属組織	鋼の性質	鉄鋼材料	鑄鉄鑄鋼	分析	試験・検査技術	計自動制御	IEその他術	その他

オフセット用原稿用紙有償頒布について

講演大会における講演前刷原稿は、所定のオフセット用原稿用紙を用いお書きいただいておりますが、下記により有償頒布いたしますのでお知らせいたします。

講演申し込みは別掲のごとく前刷原稿を同時に提出することになっておりますので、講演発表ご希望の方は締切日より 20 日以上余裕をもつて購入手続をとられるようお願いいたします。

記

1. 頒布料金 1 枚 5 円（頒布の枚数は下記のとおり限定いたします。なお料金は送料込）

5 枚 95 円, 20 枚 215 円, 40 枚 375 円

10 枚 135 円, 25 枚 270 円, 50 枚 500 円

15 枚 190 円, 30 枚 295 円

100 枚以上は小包となりますので係までお問い合わせ下さい。

2. 申込方法 ①オフセット用原稿用紙, ②枚数, ③送付先明記のうえ, ④料金(切手でも可)を添えお申し込み下さい。
3. 申込先 100 東京都千代田区大手町 1-9-4 経団連会館 3 階 日本鉄鋼協会 庶務課

会費納入についてのお願い

昭和 51 年分会費の納入期がまいりました。本会の事業は会費を主な財源として行なわれますので、会費は毎年 12 月に 1 年分を前納していただくことになっております。別送の郵便振替用紙にてお払込み下さいますようお願いいたします。会員団体所属の会員にあつては幹事宛お支払い下さい。

記

会費年額

正会員 5,400 円

学生会員 2,700 円

外国会員 6,000 円

宛先 100 東京都千代田区大手町 1-9-4 経団連会館 3 階
社団法人日本鉄鋼協会 郵便振替口座 東京 193 番

昭和 51 年秋季 (第 92 回) 講演大会討論会 討論講演募集のお知らせ

昭和 51 年秋季 (第92回) 講演大会に開催されます討論会講演を下記により募集いたしますので奮ってご応募下さるようご案内いたします。

1. 討論会テーマ

1) 高炉の反応 座長 吉井 周雄

近年高炉解体時の調査、操業中の炉内試料採取などにより、炉内の状況は把握されて来つつあるが、それらの現象を知るのみでは、その意味は少なく、それらの知見を今後の操業に生かし、又制御に使用せねばならない。

また一方、炉内反応の基礎的研究も進み、その反応の解明に多くの知見が与えられている。それらの多くの反応または、その組合せにより、炉内における成分移動、還元、溶融、メタル・スラグ分離などの状況が出現していると考えられるが、この討論会では、上記の諸調査、研究の結果を踏まえて、高炉炉内の挙動を対象として反応面より討論を行ない、炉内反応の解明に資したいと考える。

2) 連铸々片の内部割れの発生とその防止法 座長 郡司 好喜, 大橋 徹郎

連铸々片の操業技術の進歩に伴ない、铸片の内外に発生する多くの欠陥も、その生成機構の解明と防止対策の進歩によつて大幅に減少しつつあります。

今回は、連铸々片特有の欠陥である“内部割れ”についての討論を予定しております。内部割れは鋼の高温強度、連铸機の構造、操業方法など幅広い分野の総合的な検討が必要とされており、その対策技術の確立は単に铸片品質の安定のみならず、高速铸造を目指す上での重要な課題でもあります。基礎的な研究は勿論、実操業の総合的な解析および防止対策までを含む広い範囲の討論を期待しております。

3) 高張力鋼薄板 (ステンレスを含む) の塑性加工 座長 神馬 敬

軽量でかつ高強度の製品を目標として、高張力鋼薄板の塑性加工が自動車をはじめ各種の業界で行われるようになった。これに伴い、新しい材質の開発、成形法、成形性試験、型の潤滑、製品の安全性など各方面からの研究が進められている。しかし、なお未解決の点が多い、この機会に共通の課題をもつステンレス鋼板も含めて討論を行い、今後の一層の発展を期待したい。

4) 鋼の疲労き裂の発生と伝播特性 座長 荒木 透

各種構造用鋼の繰返し応力による疲れ挙動と成分、組織、不均質性等の冶金的要因との関係を実験的に追究し、その関連を材料学的に考察した論文を中心に討論を行なう。破壊力学的解析や疲れ損傷の微視的機構の考察も望ましい議論である。とくに疲労き裂の発生条件、疲労き裂伝播 (da/dN) についての ΔK_{thresh} 、速度指数等の特性が実際の鋼の組織、他の力学特性、欠陥等の要因とどう関連するかということに関する新しい見解を期待する。

2. 申込締切日 昭和 51 年 2 月 10 日 (月)

3. 申込方法 「鉄と鋼」本誌明年 1 月号添付の申込用紙に必要事項ならびに申込書裏面に 400 字程度の講演のアブストラクトをお書きのうえお申し込み下さい。

4. 討論講演の採否 討論講演としての採否は、前記ご提出のアブストラクトにより検討のうえ決めさせていただきますので、あらかじめお含みおき下さい。

5. 講演前刷 昭和 51 年 5 月 10 日 (月)

原稿締切日 討論講演として採用された方は、本会所定のオフセット原稿用紙 4 枚以内 (表, 図, 写真を含め 6,700 字) にタイプ印書, 黒インクまたは墨をもちいて楷書で明りようにお書きのうえ, ご提出下さい。

6. 講演テーマ・講演者の発表 「鉄と鋼」第 62 年第 8 号 (昭和51年7月号) にて発表いたします。

7. 講演内容の発表 「鉄と鋼」第 62 年第 9 号 (8月号) に講演内容を掲載いたします。

8. 討論質問の公募締切日 昭和 51 年 9 月末日

前記 9 号掲載の講演内容をご覧のうえ、質問対象講演を明記のうえ、本会編集課宛ご送付下さるようお願いいたします。

申込先: 100 東京都千代田区大手町 1-9-4 経団連会館 3 階
日本鉄鋼協会編集課 TEL 03-279-6021 (代)

第 38 回西山記念技術講座開催のお知らせ

テーマ

日本鉄鋼業の将来

第 38 回西山記念技術講座を下記のとおり開催いたしますので、多数ご来聴下さいますようご案内いたします。

I 期 日 昭和 51 年 3 月 11 日(木), 12 日(金)

発明会館ホール 港区芝西久保明舟町17 TEL 03-502-0511

II 演題ならびに講師

- | | | | | |
|-----|----|-------------|---------------|----------------------------|
| 第一日 | 1) | 9:30~11:30 | 日本の産業構造の将来 | 日本興業銀行産業調査部長 |
| | 2) | 12:30~14:30 | 製錬技術の将来像 | 川崎製鉄(株)専務取締役技術研究所長 三本木 貢 治 |
| | 3) | 14:45~16:45 | 塑性加工の未来像 | 住友金属工業(株)技師長 岡本 豊 彦 |
| 第二日 | 4) | 10:00~12:00 | 鉄鋼材料技術の将来像 | 日本鋼管(株)取締役技術研究所長 堀川 一 男 |
| | 5) | 13:00~15:00 | 日本鉄鋼業の将来とその課題 | 新日本製鉄(株)調査部長 河野 力 |

III 講演内容

1. 日本の産業構造の将来 日本興業銀行 産業調査部長

60年代に目覚ましい高度成長を遂げてきた日本経済も、資源エネルギー、環境問題、インフレ等の制約要因から、今後減速経済への移行を余儀なくされている。しかしながら一方では、世界経済に占める日本産業の役割は極めて大きく、今後とも鉄鋼、石油化学等を中心として世界への安定的な工業製品の供給責任を果たして行かねばならない。かかる視点から世界経済の中期展望を踏まえつつ日本経済の展望と産業構造の将来を分析する。

2. 製錬技術の将来像 川崎製鉄 三本木 貢 治

原料やエネルギー資源、労働事情、環境保全などの諸問題の動向をふまえながら、鉄鋼精錬における主流プロセスの今後の発展とその限界、その他の注目すべき新プロセスの将来性を述べる。また、学術的立場より、反応工学によるプロセス解析の最近の進歩と、それに基づく間接および直接製鉄法の将来像、精錬技術の開発に必要な基礎的知見として今後解明されるべき冶金物理化学上の問題点などについて展望する。

3. 塑性加工の未来像 住友金属工業 岡本 豊 彦

熱延：CC よりの直接圧延，CC スラブ幅殺し，倍尺圧延，1.0 mm 以下の熱延，低温熱延超深絞り鋼板，スケールなしコイル

冷延：連続冷延，連続焼鈍，二枚重ね冷延，タンデムセジミアー，超硬ロール冷延

厚板：レバースの完全自動化

製管：CC よりの直接熱間継目無製管，中空鋼塊からの大径目無鋼管の製造，小径丸鋼よりの押し出し製管，連続式ロールピルガー，超高速電綫管の製管機，屋外でできるスパイラル鋼管製造機，現地で設置するUOプレス

線材：小径線材の熱間圧延，無酸化，DP 線材の圧延，超高速伸線機，線材のコールドピルガー，伸線工場の完全連続無人化，エキストルーションドロウイング

4. 鉄鋼材料技術の将来像 日本鋼管 堀川 一 男

近年における鉄鋼材料技術の進歩発展は目ざましい。鉄鋼製造技術の発達と金属材料に関する諸科学の進歩による成果であるが、その原動力は土木、建築、船舶、機械、自動車等鉄鋼の需要面からの新しい材料に対する強い要請である。今後共海洋開発、原子力をはじめ鋼構造は大型化、高性能化の傾向にあり、また省力化、省資源、省エネルギー安全公害対策など新しい社会的、経済的ニーズが出てきているので、これらに促されて進歩発展するものと思われる。

5. 日本鉄鋼業の将来とその課題 新日本製鉄 河野 力

エネルギー危機は資源・エネルギー需給に大きな変革をもたらしたが、今後とも産業材料としての鉄鋼の優位性に大きな変化はない。しかし原燃料価格の上昇及び将来の需給の変動に対しフレキシブルな生産体制と国際競争力の確保が一段と要求される。又、供給体制の将来にも立地、環境の他、多くの供給制約要因がクローズアップされ、その対策が要請されよう。鉄鋼業は今後経済成長の鈍化に伴い、内需の構造変化に対応する事、及び新規需要の開拓にも努めるとともに世界鉄鋼需給とからめて直接間接輸出の動向に注目していく必要がある。

IV 聴講料無料 (事前の申込みは必要ありません)

V テキスト代 3,000 円

VI 問合せ先 日本鉄鋼協会編集課 〒100 千代田区大手町 1-9-4 TEL 03-279-6021

VII その他 講座の開催当日会場にて協会の刊行物を展示頒布いたします。

東海支部主催
湯川記念講演会

日時 昭和51年1月29日(木) 14:00~
場所 名古屋市千種区不老町
名古屋大学附属図書館視聴覚室
題目 「技術開発と能力開発」
講師 東京大学教授 五弓 勇雄氏

九州支部主催

高炉炉内反応・炉内現象に関する
講演討論会案内

本会九州支部では、下記により講演討論会を開催いたしますので、多数ご参加下さいますようご案内いたします。

記

日時 昭和51年2月6日(金) 10:00~17:00
場所 住友金属工業(株)小倉製鉄所体育館大会議室
北九州市小倉北区許斐町1
Tel. 093-561-4121
(国鉄小倉駅または西鉄電車室町電停下車)

プログラム

10:00 開会
10:05 鉄鉱石の還元速度に関する2,3の問題
九大工 小野 陽一
10:55 スラッグ-炭素飽和溶鉄間のSの挙動
九工大 芦塚 正博
昼 食
13:00 高炉解体調査よりみた炉内状況
新日鉄生産技研 重見 彰利
13:50 小倉改2高炉の炉内解体調査結果
住金小倉 横井 毅
休 憩
15:00 試験高炉炉内の直接観察
東大生研 館 充
15:50 高炉下部現象の解明
住金中技研 福田充一郎
16:40 総括討論
17:00 閉会

鉄鋼基礎共同研究会

遅れ破壊部会シンポジウム延期の
お知らせ

去る昭和50年11月27日(木)に予定しておりました鉄鋼基礎共同研究会遅れ破壊部会(主催:日本学術振興会,日本金属学会,日本鉄鋼協会)のシンポジウムは、国鉄ストの為延期となりました。

皆様に御迷惑をおかけした事をお詫び申し上げます。

なお、延期日程につきましては、後日改めて御案内致します。

「第14回原子力総合シンポジウム」開催計画

内容

運営委員会が共催学協会の提案テーマにより、特別講演(1件)・総合講演(11件)・講演(3件)を別記(仮)プログラムの通り立案した。

「予稿集」(B5判オフセット印刷)を1月下旬に作成し、実費(予価800円)頒布する。参加費は1人500円(当日受付)

とき 1976年2月18日(水),19日(木)

ところ 国立教育会館(千代田区霞が関3-2-3
Tel. 03-580-1251)

大会議室(6階),中会議室(6階)
共同主催(日本鉄鋼協会,ほか32学協会)

2月18日(水)

A会場(大会議室)

(敬称略)

開会の辞(9:45~) (運営委員長) 塩川 孝信

挨拶(9:50~) (日本原子力学会々長) 伏見 康治

特別講演(仮)

わが国における原子炉施設安全性研究計画
(10:00~11:00)

(原子力委員) 吹田 徳雄

座長(原子力) 伏見 康治

(総合講演1) 軽水炉の想定事故に関する安全性研究
(11:00~12:30)

座長(東大) 都甲 泰正

(1) 米国軽水炉安全性情報亦換会議(30分)

(原研) 村主 進

(2) 冷却材喪失事故に関する試験研究(30分)

(〃) 斯波 正誼

(3) 反応度事故に関する試験研究(30分)

(〃) 石川 迪夫

一午 休一

(総合講演2) 原子炉に関する熱工学上の問題と研究
方向 (13:30~15:30)

座長(原研) 山崎彌三郎

(1) 高速炉(30分)

(阪大) 藤家 洋一

(2) 高温ガス炉(30分)

(原研) 岡本 芳三

(3) 核融合炉(30分)

(〃) 佐野川好母

(4) 軽水炉(30分)

(東大) 秋山 守

(総合講演3) 原子力プラントの品質を向上させるため
に開発された溶接技術(15:40~17:10)

座長(東大) 安藤 良夫

(1) 原子力プラントの溶接施工における
品質保証(30分)

(石播) 天野 牧男

(2) 原子力プラントの配管溶接技術の
進歩(30分)

(日立) 姉島 彦彦

(3) エレクトロン・ビーム溶接法の原子力プラ
ントへの応用(30分)

(川重) 寺井 清

B会場(中会議室)

(総合講演4) 船用原子炉について(11:00~12:30)

座長(日立造船) 木下 昌雄

(1) 船用炉型式の技術的比較評価(30分)

(東船大) 竹村 数男

(2) 原子力船“むつ”の遮蔽改修計画 (30分)
(原船団) 宮越 淳一
一午 休一
(総合講演5) トリチウムに関する諸問題
(13:30~15:30)

座長 (東北大) 塩川 孝信
(1) 概説 (30分) (東工大) 垣花 秀武
(2) 核融合炉用トリチウムの抽出分離 (30分)
(九大) 三石 信雄
(3) トリチウムの資源 (30分)
(原研) 天野 恕
(4) トリチウムの安全取扱い (30分)
(放医研) 櫻田 義彦
(総合講演6) レーザー技術原子力への応用
(15:40~17:10)

座長 (名大プラ研) 高山 一男
(1) レーザー核融合 (30分) (阪大) 山中千代衛
(2) レーザーによる同位体分離 (30分)
(原研) 小幡 行雄
(3) レーザー計測 (30分)
(名大プラ研) 藤田 順治

2月19日 (木)

A 会場 (大会議室)

(講演1) 発電用核燃料体の設計・検査技術基準
について (50分) (10:00~11:00)
(資源エネルギー庁) 末広 恵雄
座長 (原研) 武谷 清昭
(講演2) 原子力製鉄技術の研究開発の現況に
ついて (50分) (11:00~12:00)
(原子力製鉄技術研究組合) 下川 敬治
座長 (東工大) 鈴木 弘茂
一午 休一

(総合講演7) わが国における高速増殖炉の開発
の現状 (13:00~14:30)
座長 (東大) 三島 良績
(1) 開発の現状 (30分) (動燃) 三木 良平
(2) 原型炉“もんじゅ” (30分)
(三菱原子力) 長沼辰二郎
(3) 燃料開発と燃料サイクル (30分)
(動燃) 天沼 俊
(総合講演8) 島根発電所の建設および運転経験
(14:40~16:10)

座長 (原研) 村主 進
(1) 建設 (30分) (中国電力) 薬師寺 薫
(2) 運転経験 (30分) (中国電力) 仁木 可也
映画 (16:10~17:30)
原子力発電所と地震 (通産省) 放射線管理 (原研)
太陽をつくる: 核融合のはなし (原研)
動燃1975 (動燃)

B 会場 (中会議室)

(総合講演9) 超ウラン元素の研究と問題点
(10:00~11:30)
座長 (原研) 江藤 秀雄
(1) 自然環境における超ウラン元素の
研究 (30分) (金沢大) 阪上 正信

(2) プルトニウムの生物学 (30分)
(放医研) 松岡 理
(講演3) 放射線によるヒトの染色体の異常 (50分)
(放影研) 阿波 章夫
座長 (放医研) 熊取 敏之
一午 休一

(総合講演10) 加速器利用の現状 (13:30~15:00)
座長 (高エネルギー研) 西川 哲治
(1) パルス化ビームによる中性子回折 (30分)
(東北大) 石川 義和
(2) パルスラジオリンス (30分)
(北大) 片山 明石
(3) 医学への利用 (30分) (放医研) 梅垣洋一郎
(総合講演11) 核医学利用アイソトープ
(15:10~16:40)

座長 (帝京大) 笈 弘毅
(1) 加速器によるアイソトープの製造 (30分)
(都立大) 村上悠紀雄
(2) わが国の原子炉によるアイソトープの
製造 (30分) (原研) 四方 英治
(3) 核医学よりの要望 (30分)
(東京都養育院附属病院) 飯尾 正宏

フィールド・イオン顕微鏡 (FIM) の金属学への 応用国際シンポジウムについて

金属材料の諸性質を原子論的に解明するためには原子像の直接観察が最も有方な手段であり、その意味において FIM の金属学への応用は単に表面物性としてのみならず原子論的議論の解決にとつてなくてはならない手段であると考えられます。かつて、電子顕微鏡透過法によって材料の理解が長足の進歩を示したのと同様 FIM の応用は今後大きく広がることが予想されます。また、アトムプローブは最も原子に近い桁での分析が可能な点で他の追従を許しません。以上のような理由で「FIM の金属学への応用」国際シンポジウムを日本で開催することは大いに有意義なことであると考えます。現在、日本学術振興会において補助を受けることが決まっております。また開催時期、場所、その他についても検討の結果、下記の予定で行なう方針であります。つきましてはふるつて御応募参加下さるようお願い致します。

1. 会合名 [International Symposium on Application of FIM to Metallurgy]
2. 日時 5月6日(木), 7日(金), 8日(土)
3. 場所 山中湖畔 ホテルマウント富士
4. 参加費 個人 20,000円
5. 招待講演予定
E. W. Müller Pennsylvania State University U.S.A.
B. Ralf University of Cambridge U. K.
S. S. Brenner U.S. Steel Research Laboratory U.S.A.
D. N. Seidman Cornell University U.S.A.
P. J. Turner University of Cambridge U.K.
D. A. Smith University of Oxford U.K.
6. 会議内容

招待講演 (45分講演15分討論) 6~7件
一般応募講演20分 (15分講演5分討論)

5月6日	5月7日	5月8日
13:00 開催	9:00 アトムプローブの金属学への応用	9:00 結晶粒界相境界
表面吸着 拡散 格子欠陥 照射	観光 (富士五合目)	13:30 析出相 15:30 終了予定
17:30 ビアパーティー	19:00~21:00 FIM及びアトムプローブ装置について	

7. 宿泊料金及び食事料金

室名	料金 (税サービス込)	1人分料金
ツインルーム 2人用	11085円	5543円
〃 1人用	9340円	9340円
和室 (4人同室)	12050円	3013円

食事はパッケージ・プラン方式とし、6日(昼)、7日(朝、昼、夕)、8日(朝、昼)を一括して、9740円です。参加費と同時に払い込み下さい。食べない場合も払い戻しを致しません。パッケージ・プラン方式を望まない方は、少々割高になりますが、ホテルの食堂を各自利用することができます。(6日夕のビア・パーティーは全員招待です)

8. 第1次参加申込 (1. 講演者あれば題名 2. 参加者名 3. 勤務先および連絡先 4. 宿泊有無) を下記宛 1月10日迄に御送り下さい。詳細はサーキュラーにてお知らせ致します。

〒113 東京都文京区本郷 7-3-1
東大工学部金属工学科 井形教授室気付
FIM国際シンポジウム係

エレクトロニクスによる計測の基礎と最新の
応用に関する講習会

共催：日本材料学会、同関西支部、同中部支部、同中国四国支部、協賛：日本鉄鋼協会、ほか

材料の諸問題に取り組んでおられる技術者、研究者のために材料の物性と強度に関連した諸量の計測を中心として、エレクトロニクスによる計測の基礎から最新の技術レベルまでを平易にかつ具体的に説明し、さらに検出から変換、データ処理に至る計測システムについて最近の低雑音測定技術を含めて解説しようとするものであります。

期 日 昭和51年2月6日(金)、7日(土)
会 場 大阪科学技術センター 404号室
(大阪市西区うつぼ公園東北角地下鉄本町駅下車、北150m TEL (06) 443-5321)
定 員 80名

プログラム

第1日 (2月6日)
エレクトロニクスによる材料計測の基礎
神戸大工 豊田 実

力学、環境諸量の計測
(1) ひずみゲージとその応用製品 (荷重、圧力、振動、変位の検出) 東京衛機 近藤 啓二
(2) 割れ測定への Acoustic Emission の応用 新日鉄 磯野 英二
(3) 温度湿度の検出と制御 島津製作 (交渉中)
(4) 電気化学測定法の実際 北斗電工 呂 秋成
半導体の基礎と各種検出素子 京大工 松波 弘之

第2日 (2月7日)
エレクトロニクスの基礎と応用 立命大理工 荻谷 公明
オシロスコープの原理と応用 ソニーエレクトロニクス 大竹 利道
デジタル計測の原理と応用 (測定者はどんな場合にデジタル測定器を使用すべきか) 横河・ヒューレット・パッカード 池田 賢司
微小信号の検出について エヌエフ回路設計ブロック 大倉 郁生
過渡現象のオンラインデジタル計測と処理システム 三菱電機 高見 紀二・宮本 紀男
参加料 会員1名 15,000円 非会員 20,000円 (共にテキスト含む)
申込方法 氏名、所属、連絡先を明記のうえ参加料を添え 1月24日(土)までに次にお申込み下さい。
申込先 〒606 京都市左京区吉田泉殿町1の101
TEL (075) 761-5321
日本材料学会講習会係 振替口座京都 26625 番

第2回溶接技術基礎講座

主催：溶接学会、後援：日本溶接協会 協賛：日本鉄鋼協会、ほか

1. 大阪会場 昭和51年1月22日(木)、23日(金)
大阪大学工学部 岡田メモリアルホール
大阪府吹田市山田上 電話 (06) 877-5111
1月22日(木)
9:30~12:30 溶接検査法の基礎 日本大学 石井勇五郎
13:30~15:00 溶接設計の基礎 東京大学 飯田 国広
15:00~16:30 各種溶接法の基礎 大阪大学 西口 公之
1月23日(金)
9:30~12:30 溶接材料と溶接冶金の基礎 大阪大学 菊田 米男
13:00~16:30 溶接施工の基礎 鉄鋼短期大学 高木 乙磨

2. 東京会場
昭和51年2月12日(木)、13日(金)
国立教育会館 千代田区霞が関 3-4
電話 (03) 580-1251
講師題目とも大阪会場と同じですが順序は異なります。

3. 受講料 会員 20,000 円 非会員 25,000 円
(協賛学協会の会員を含む)
4. 受講申込 両会場とも定員 (各 100 名)
受講料払込銀行: 東海銀行秋葉原支店
口座番号 666-808-850

- 振替貯金口座: 東京143434
5. 申込書の請求および問合せ先
〒101 東京都千代田区神田佐久間町 1-11
社団法人溶接学会事務局 教育・出版係
電話 (03) 253-0488

鉄鋼基礎共同研究会凝固部会シンポジウム

鉄鋼の凝固現象

—現在の問題点と将来の方向を中心として—

主催: 鉄鋼基礎共同研究会凝固部会 (日本学術振興会, 日本金属学会, 日本鉄鋼協会)

日時 昭和 51 年 2 月 18 日 (水) 9:30~17:00

会場 農協ビル 9F 農協ホール
東京都千代田区大手町 1-8-3 TEL (03) 279-0311 (地下鉄丸の内線)
プログラム

午前 (9:30~12:00)

- | | |
|----------------------|--------------|
| (1) 凝固部会経過報告 | 金材技研 郡 司 好 喜 |
| (2) 伝熱計算の設定条件と手法(I) | 名大工 鞭 巖 |
| (3) 伝熱計算の設定条件と手法(II) | 川鉄技研 松 野 淳 一 |
| (4) 結晶組織形態の生成機構 | 北大工 高 橋 忠 義 |

午後 (13:00~17:00)

- | | |
|-------------------------------|---------------|
| (5) 鉄鋼のデンドライトアームスペーシングとマイクロ偏析 | 阪大工 岡 本 平 |
| (6) 凝固過程における介在物の生成 | 東大工 梅 田 高 照 |
| (7) 鉄凝固時の気孔生成 | 名大工 森 一 美 |
| (8) 等軸晶の生成機構 | 神 鋼 鈴 木 宏 之 章 |
| (9) キルド鋼塊のマクロ偏析 | 日 鋼 鈴 木 是 明 |
| (10) 連続铸片のマクロ偏析, とくに中心偏析について | 新日鉄広畑 大 橋 徹 郎 |
| (11) 総合討論 | |

テキスト代 500 円 (当日会場入口にて頒布致します)

参加費 無料 (事前の申込みは必要ありません)

お問い合わせ先 日本鉄鋼協会技術部 吉 岡 邦 宏

東京都千代田区大手町 1-9-4 経団連会館 3 階 TEL (03) 279-6021 (代)

「鉄と鋼」特集号原稿募集のお知らせ

テーマ: 大型鋼塊の製造と加工

近年, 扁平鋼塊, 管条用鋼塊, ESR 鋼塊, 鍛鋼用鋼塊いずれにおいてもいちじるしい大型化が進められております. 大型鋼塊の品質, 加工, 熟処理などの諸問題に関する技術の発展の過程の全貌が明らかにされ, つぎの発展への基礎を提供することを目的として特集号を刊行いたします. 関連ある論文, 技術報告のご投稿をお願いいたします.

記

1. 原稿締切日: 昭和 51 年 2 月 16 日 (月)
2. 原稿枚数: (論文)・本会所定原稿用紙 (450 字詰) 図, 表, 写真を含め 50 枚以内 (刷り上り 10 頁以内).
(技術報告)・本会所定原稿用紙 図, 表, 写真を含め 35 枚以内 (刷り上り 7 頁以内).
3. 発行: 鉄と鋼 第 62 年第 13 号 (昭和 51 年 11 月号)
4. 原稿送付先: 100 東京都千代田区大手町 1-9-4 経団連会館 3 階
日本鉄鋼協会編集課 (電 03-279-6021)
(投稿に当っては, 原稿表紙に「鉄と鋼」特集号と朱書き下さるようお願いいたします)